

～信州松本の山案内～

北アルプス 奥又白池 を紹介します。



奥又白池（おくまたしろいけ）は、前穂高岳の南東に位置し、前穂高岳東壁を目指すクライマーのキャンプ地としても利用されています。井上靖の「氷壁」にも登場する場所です。標高は約 2470m。奥又白池登山ルート地図

奥又白池

上高地～徳沢～新村橋～奥又白谷分岐～奥又白池～新村橋～徳沢ロッジ

【上高地バスターミナル】→120分→【徳沢】→20分→【新村橋】→80分→【奥又白谷分岐】→140分(休憩含む)→【奥又白池】→140分(休憩含む)→【奥又白谷分岐】→50分→【新村橋】→20分→【徳沢ロッジ】

<標高>上高地：約 1500m 奥又白池：約 2470m



この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(穂高岳 南西)を使用したものである。

アクセス方法

<マイカーの場合> 松本市から、R158で上高地へ向かいます。マイカー規制があるため沢渡（さわんど）で駐車（1日500円）してシャトルバス（片道1,000円 往復1,800円）に乗り換え。タクシーも利用可。松本から（1時間）→沢渡（バス30分）→上高地

上高地～新村橋 140分

上高地バスターミナル（標高約1500メートル）から河童橋の脇を通り梓川に沿って歩きます。約1時間毎に宿泊施設「明神館」～「徳沢園」があるので水場・トイレがあります。徳沢から先、トイレはありません。新村橋（しんむらばし）まではほとんど平らです。

新村橋～奥又白谷分岐 80分

新村橋からはしばらく舗装はされていませんが車道を歩きます。と言っても車はほとんど通りません。車道を外れて西に向かいます。ここから登り坂になりますが、まだまだ序の口です。奥又白谷のこの道は、奥又白池に向かう中島（なかばた）新道と涸沢に向かうパノラマコースに分かれます。分岐のあたりは大きな石がごろごろしています。

奥又白谷分岐～奥又白池 140分（休憩含む）



↑真ん中の山に登ります 左の枯れ沢は松高（まつこう）ルンゼ



ここから先が大変です。登山道を地図で見ると点

線で「熟達者向」となっている理由がよくわかりました。上り口から急です。ここで急激に気が引き締まります。木の根っこをつかんだり、石をつかんで腕と胸の筋肉も活躍させながら登って行きます。登山道は細く、熊笹が生い茂っています。この熊笹がとてもありがたく感じました。笹がなければ下がまるまる見えてしまい、高所が苦手な私には恐怖心が押し寄せてきたことでしょうか。とにかく細い道なのですれ違いも困難な場所が多いのですが、この時は誰にも会わずすれ違うことはありませんでした。

地図を見るとわかりますが、急坂のため足の運びが悪くなってきます。いつまでこんな思いをするのだろう、もうクタクタと思ったところに奥又白池が現れます。天空のオアシスのようです。素晴らしさに疲れが吹っ飛びます。

奥又白池



奥又白池に着いたのは11時20分でした。素晴

らしい眺めのため2時間近くもいました。

紅葉シーズンのため他にも人が登ってきそうでしたが、私たちのグループのほかには誰も登って来る人はいませんでした。奥又白池を独占状態です。

天気は悪くはありませんでしたが、10月の標高2470mはじっとしていると寒くなってきます。ダウンジャケットと合羽を着ました。



↑池の向こうに見える山が前穂北尾根

奥又白池～奥又白谷分岐 140分（休憩含む）



帰りは楽だと思っていたのですが、下りの急坂は注意深く足の位置などを考えながらだったので頭も疲れしました。休憩時間は登りよりも少なかったのですが、同じくらい時間がかかったのでどれほど慎重だったかわかりますよね。

奥又白谷分岐～新村橋～徳沢ロッヂ 70分



新村橋までは50分くらい、そこからさらに20分で徳沢に到着します。奥又白谷分岐までの下りで予想以上に時間がかかってしまったために徳沢に着くころには薄暗くなってきました。徳沢ロッヂには午後5時10分ごろに到着しました。夕食は5時30分からだったので間に合って良か

ったです。2007年の秋は横尾山荘が改修中で休業だったため混むことが予測されたので前もって予約しておきました。紅葉シーズンは予約をお薦めします。



今までの中で一番きつい登山道でした。槍ヶ岳までの道がとても楽だったと思いました。一本道なので迷うことはないと思いますが、危険箇所など道を良く知っている人と行くことをお薦めします。

この山行の翌日は涸沢に行きました。行きの道は徳沢経由でしたが、帰りはパノラマコースを通りました。涸沢からパノラマコースへの登りの道が筋肉痛で大変でした。新村橋から上高地までの平らな道が筋肉のクールダウンにはちょうど良く感じました。

奥又白池に又行くことがあれば、それまでに十分な筋肉トレーニングをしておきたいものです。

2015 晩秋もしくは初冬の前穂高・奥又白池 前穂高・奥又白池(北アルプス・御嶽山)



記録したユーザー

- 日程 2015年10月29日(木)~2015年10月31日(土)
- パーティ 2人(yanzさん、ほか1名)
- 登山口へのアクセス タクシー その他:沢渡足湯駐車場から往路はラッキー!二人連れハイカーさんと相乗りタクシー。復路は上高地着17時30分頃にて言わずもがな...
- 天候 初日:日中晴れ、夜半より曇り 2日目:曇りのち時々雪 3日目:朝から快晴

この登山記録の行程

【1日目】

上高地バスターミナル(09:30)・・・河童橋(09:35)・・・明神(10:15)[休憩 10分]・・・徳沢(11:30)[休憩 30分]・・・新村橋(12:15)・・・奥又白谷河原(中畠新道分岐)(13:50)[休憩 20分]・・・中畠新道・・・奥又白池(16:30)

【2日目】

奥又白池(8:30)・・・5・6のコル直下尾根手前(10:00)・・・奥又白池(11:30)

【3日目】

奥又白池(9:50)・・・中畠新道・・・奥又白谷河原(中畠新道分岐)(13:30)[休憩 30分]・・・新村橋(15:00)・・・徳沢(15:15)[休憩 15分]・・・明神(16:25)[休憩 5分]・・・河童橋・・・上高地バスターミナル(17:30)

この記録をコピーして登山計画を立てる この記録をコピーして登山記録をつける



水平移動距離	約 23.0km	積算標高差	上り: 約 1,662m 下り: 約 1,662m
--------	----------	-------	------------------------------

先日(2016/9/27-28)涸沢までの山行を記録をアップしている際、昨年の山行を何ら形にしていなかった事を思い出し、記憶と写真データをもとに記録することにしました。そのためコースタイム等に若干の間違があると思います。また、今回は結果として5.6のコルは超えませんでした。そこへは訓練、経験を積んでいない方は絶対に立ち入らないで下さい。ネット等で楽勝!と言っている人達はクライマーまたは近似種です。常人は最悪、住所地在「三〇の川の向こう側」になります。また、徳沢から奥又白池往復を日帰りするにしてもトイレなどの設備は一切ありません。まあ、エキスパート諸氏は鼻で笑って下さい。

2015年10月29日9:30上高地を発つ。晩秋の空気は冷えて心地よいが通常装備の他、アイゼン・ピッケルと万が一の登攀装備が入ったザックが重い。それでも、この時期に少しでもバリエーションっぽい場所に入るのであれば仕方無いと諦める。予定では初日、上高地から奥又白池。2日目、奥又白池から5.6のコルを超えて涸沢。3日目、横尾経由で下山とし計画書を提出。ピークを踏まない計画なのは私が軟弱だからだ。

それにしても天気が良い。河童橋超えに薄く雪を纏った奥穂方面、明神の壁は輝くように、梓川上流には常念方面とすべてが透き通って見える。天気は良いが重いザックでは急ぐ事が出来るわけもなく、ふてぶてしい態度のサルに迎えられ? 徳沢に到着。テン場ではテントを物色しようとするサル共と、それを阻止せんとする小屋のオネエサン達の小競り合いが繰り広げられていた。正直、オネエサン達に加勢したい気分であったが徳沢にテントを張ったまま安心して山に入る事が出来るのは、こうした関係者の尽力があるからと実感した。

しばしの休憩後出発。新村橋を渡り、奥又白谷河原方面へと歩むが横尾方面とは異なり誰一人登山者がいない。唯一、工事車両1台が林道を走っていったが一ヶ月前の紅葉時期ならパノラマコースの利用者でこうはいかないだろう。しかし静寂の穂高を満喫するには最高だ。ダラダラの道を詰めパノラマ分岐へ到着。ここから松高ルンゼに向かい、右側の尾根を登るが結構な急登だ。背の高くなったザックを背負っているとコースを見上げるのに自分の頭があたり邪魔、何度も繰り返していたら首が辛くなってきた。ちなみに取り付きは一般ルートなら鎖が下がっているだろう。

そんなこんなで漸く日没前に池へ到着。気温も随分下がり、吹き始めた風と相まって体感的には氷点下だ。そそくさとテント設営しガスに火をつけ、湯を一口、そしてビール。天然の冷え方だった。夜中は時折、雪を交えながら風が吹き続いた。

2日目、10月30日。徳沢方面は望むことが出来るが頭上に重い雲が押し掛かる。キジ袋に用を足していると眼下を物資輸送と思わしきヘリが行き来する。小屋閉め間近なので僅かな好条件を逃すまいと大忙しであろうとその時は思った…後日、穂高岳山荘さん、涸沢ヒュッテさんのSNSを見るとこの日、前穂北尾根を超えた涸沢は晴天だったようだ。たった一つの尾根を越えただけで…閑話休題。

遅くはなったがテントを撤収し8:30頃、踏み跡を辿り5.6の科尔へ向かう。進み始めてすぐに風雪が強くなる。それと重なり、谷から大小の落石の音が聞こえる。シーズン最初の雪を感じながら尾根筋を降り、谷を挟んで取り付き付近まで到達した時だ、まさしく5.6の科尔からガラガラー！ゴン！ゴン！！と音を立てて人頭大の石が落ちてくる。少しの時間をおいて、また落ちてくる。相方と顔を見合わせ言葉を交わす「今日はやべえな」「うん、やべえよ」即、奥又白池への撤退決定。その日は昼から酒宴となった。

3日目、10月31日。明け方は随分と冷えたが、時期的にこんなものだろうと思い夜明けを待つ。そのうち寒さに加えて消防演習がしたくなってきたので仕方なくテントのファスナーを開けると…晴天だ！！

遠くに富士や北岳のシルエットが見える。慌てて相方のテントを叩き、呼び出すが冬シュラフでぬくぬくしているのだろう。寝惚けた返事しか返って来ない。強制的に引きずり出す。結果「おおおおおー！！」相方の第一声であった。

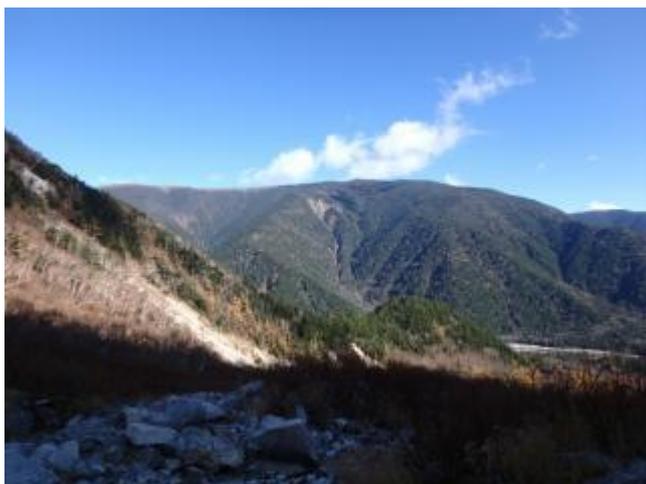
その日は熱いコーヒーと共に初冬の雪を纏った前穂の絶景を楽しみ、テント撤収は10:00近く。名残惜しさを感じながらアイゼントレ宜しく凍った道を下るが前穂北尾根方面や谷底からは前日以上に激しい落石音がする。つくづく無理をしなくて良かったと思いながら徳沢への道を歩いた。徳沢到着後、上での気分と裏腹に人の気配に安心しきり、上高地到着は最終バスの行った後だった。



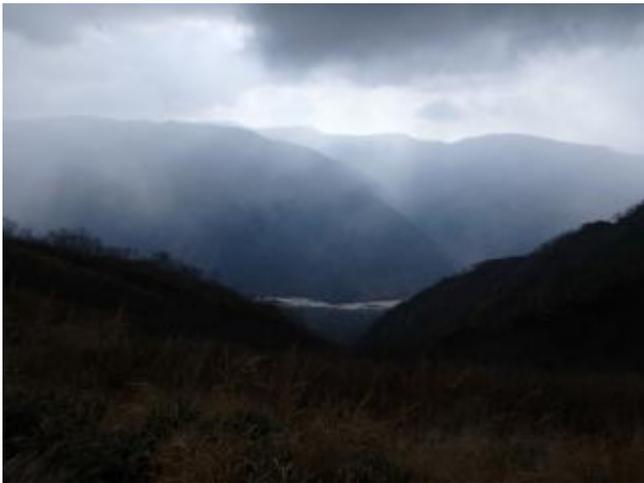
この写真の真ん中の尾根を登ります



この写真の真ん中の尾根を登ります



尾根取りつきの相方



2日目の朝、池から徳沢方面を見る。微妙にガスって来ました

がヘリは普通に行き来していました。



テント撤収直前。テントをザックに入れた直後から吹雪いてき

ました

5.6 のコル越えを諦め奥又白池に戻ってきました



ザックが重い分、食材は豊富です。2日目の夕食はチキントマトカレー+ワインでした



3日目の朝。薄化粧の前穂です

•

•



富士山と南ア方面

•



池に映る前穂と、おそらく小説「氷壁」に登場する「宝の木」と思う

•



積雪量は少ないけれど、それなりに寒かったです

•



よく目にする奥又白池シンメトリー絵図。初冬版

•



この谷筋を岩がゴロゴロ、ガラガラ...

•



テントの中から

•



この空の青。カメラ特性はあるけど加工は一切していません

•



A 沢方面

•



身の安全が保証されるなら一生住みたい気分でした

•



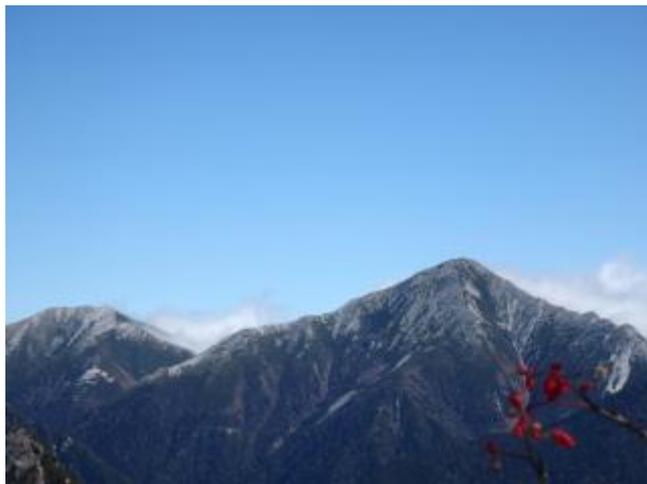
下山します。5.6 コル方面への踏み跡が判りやすいです

•



昼近くになっても霧氷が張り付いたまま

•



常念方面も薄化粧

•



東壁

•



稜線上から谷底を見る。この日に落ちたのではないだろうけど、こんなの降ってきたら...

•

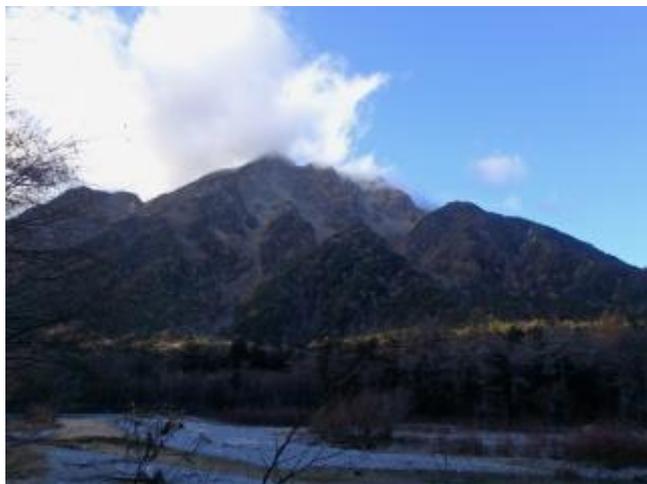


パノラマ分岐まで降りてきました

•



雲が我らに手を振っていた



穂高よさらば また来る日まで

この山行での装備

長袖シャツ、Tシャツ・アンダーウェア、パンツ、靴下、雨具・レインウェア、登山靴・トレッキングシューズ、スニーカー・サンダル、ザック、防水スタッフバック、スパッツ、ゲイター、水筒・テルモス、ヘッドライト(+予備電池)、タオル、防寒着、帽子、グローブ、手袋、軍手、サングラス、着替え、地図(地形図・ルート図)、コンパス、メモ帳・筆記用具、腕時計、カメラ、登山計画書(控え)、ナイフ、修理用具、健康保険証、ホイッスル、ファーストエイド・医療品、ロールペーパー、非常食、行動食、テーピングテープ、テント、シュラフ、シュラフカバー、テントマット、マット(個人用)、ストーブ、燃料、ライター、カップ、コッヘル、カトラリー・武器、ローソク・ランタン、冬山用登山靴、アイゼン、ピッケル、ザイル、ロープ、8環・ATC、カラビナ、環付きカラビナ、スリング(シュリング)、ハーネス、ヘルメット